都道府県別賞一等

生命保険がつないでくれた私の未来

大阪府　大阪市立三国中学校　三学年

柳澤　由乃

私は今年、高校受験を控えています。最近は学校説明会に参加したり、志望校について考えたりすることが増えました。自分の将来に向けて一歩ずつ進んでいるようで楽しみな反面、不安な気持ちになることもあります。そんな中、学校で進学にかかる費用について調べる機会がありました。私はそれまで受験料や入学金が必要だという程度しか知りませんでした。しかし、実際に調べてみると、高校には授業料だけではなく制服代や教材費、修学旅行費などさまざまな費用がかかることを知りました。さらに、大学まで進学すると多くのお金が必要だと分かりました。その金額を見た私は、とても驚きました。そして同時に『こんなにたくさんのお金が必要なのに、本当に大丈夫なのだろうか。』と不安になりました。

家に帰ってから、そのことを両親に話しました。すると父は笑いながら、「大丈夫だよ。生まれたときから準備しているから。」と言いました。私はてっきり貯金のことだと思いましたが、母が「生命保険も利用しているんだよ。」と教えてくれました。

私はその言葉を聞いて驚きました。なぜなら、それまで生命保険は病気やケガをしたとき、あるいは家族に何かあったときのためだと思っていたからです。テレビのコマーシャルなどでも、保険は万一のために入るイメージがありました。しかし、両親の話を聞くうちに、生命保険には教育費を準備する役割もあることを知りました。私が小さかった頃から少しずつ積み立て続け、進学の時期に合わせて受け取れるようにしていたそうです。

私が何も知らず毎日学校へ通い、友達と遊び、勉強している間にも、両親は私の将来を考え続けてくれていたのです。そのことを知ったとき胸が熱くなりました。私は今まで、親がいてくれることを当たり前のように感じていました。しかし実際には、私の見えないところでたくさんの準備や努力をしてくれていたのだと気付きました。

また、生命保険について調べるうちに、保険は「もしものときのため」だけではないことも分かりました。もちろん病気や事故などのリスクに備えることも大切です。しかしそれだけではなく、子どもの進学や家族の夢など、未来のための準備をすることもできるのです。私は今回の学習を通して、生命保険に対する考え方が大きく変わりました。以前は不安な出来事と結び付けて考えて

いましたが、今では家族の願いや愛情を形にするものだと思っています。保険証券の一枚一枚には、親が子どもの将来を思う気持ちが込められているのかもしれません。もうすぐ私は受験生として大切な時期を迎えます。これから勉強で苦しいこともあると思います。しかし、私のために長い時間をかけて準備してくれた両親のことを思うと『頑張ろう。』という気持ちがわいてきます。生命保険は、ただリスクに備えるためのものではありません。それは家族の未来を支え、夢への挑戦を後押しする大切な仕組みです。私は今回の経験を通して、将来への備えの大切さと、家族の深い愛情を学ぶことができました。そしていつか大人になったとき、今度は私が大切な人の未来を支えられるような人になりたいと思います。